

掲載項目	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
災害の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育 ・地域の災害危険箇所の周知 ・建物に与える影響(風速、雨量等) ・中区以外への通学、通勤者を対象とした津波対応策 ・災害に対する危険性 ・避難勧告、指示の出し方 ・自分の周りで起こりうる災害 ・防災知識(災害メカニズム等) ・サイレンの種類 	<ul style="list-style-type: none"> ・津波の高さまたキロメートル ・津波の天竜川遡上に関する情報 ・警報の種類と定義(地震、水害) ・サイレンの情報 	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な地震予測 ・津波到達時間 ・津波の想定浸水高 ・津波の浸水経路(河川の遡上) ・地震と津波の連動性 	<ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ地震の想定への提示 ・液状化の発生震度 ・津波の天竜川遡上の想定 ・昭和20年の安間川氾濫 ・「津波警報」、「津波注意報」等の語句意味と発令時に取るべき行動の明確化 ・避難勧告の発令基準 ・竜巻に関する知識(対応) 	<ul style="list-style-type: none"> ・液状化の状況と避難の方法 ・津波想定水位(浜名湖畔、気賀沿岸部等) ・測定ポイント以外の河川水位状況 ・浜北区と三方原台地の境界部(崖地)の危険性の周知 ・正確な情報の掲載(知識も含め) ・自分が住む地域の地盤、地形を知る ・避難勧告の具体的な発令基準 ・液状化発生時の対応 ・竜巻に関する知識(対応) 	<ul style="list-style-type: none"> ・延焼想定 ・液状化の状況 ・避難水位計の位置を周知 ・土砂災害危険箇所 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震発生に伴う火災 ・降雨量と河川水位の関係(自宅の浸水位) ・各河川の避難水位の明記 ・二俣川、阿多古川の水位(天竜川バックウォーター)の考え方 ・増水した河川に近づかない ・山崩れ・土砂災害 ・山崩れ予兆(大雨時、沢の水が濁る、小石が流れて来るのは山崩れ証拠) ・過去に発生した土砂災害の記録、地名の由来などを若い世代に伝える ・自宅の地盤状況 ・発生が想定される災害の内容と規模 ・倒木被害
その他知識	<ul style="list-style-type: none"> ・非常時持出品リスト ・備蓄品、非常時持出品リスト ・家族メモ欄 ・応急手当の方法 ・ベットの対処 	<ul style="list-style-type: none"> ・備蓄品(3日分の食料を備える、支援は来ない) ・避難時の最低限持ち出すもの ・食料等の備蓄 ・ライフラインが使えない時の対応 ・自主防災隊、水防活動の周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節、時間帯による交通量(避難ルートが通れない可能性あり) ・各家庭における備蓄品 ・緊急時の持ち出し品 ・自主防災隊の機能(災害発生時の自主防災隊の対応方法) ・家庭内における避難経路の設定方法(安全な避難経路の選び方) 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難ビル、津波タワーの収容人数 ・備蓄品と持ち出し品 	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地における避難所の選定方法 ・生活道路(都田川の橋梁等)の被害予測 ・非常持ち出し品の確認 ・救助方法 ・加入している保険内容の熟知 ・過去の言い伝えを活かす ・消防団に対する理解、自主防災組織や自治会の役割の周知 ・防災訓練のあり方や参加の重要性 	<ul style="list-style-type: none"> ・古い家屋の耐震構造調査方法(アドバイス) ・避難するための心得(電気、ガス、戸締り、家族への連絡等) ・避難所における備蓄品の量 ・非常持ち出し必要物品 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所の利用方法(開け方) ・備蓄品の種類・量 ・災害時の非常持ち出し品(雨具、手袋、ヘルメット、懐中電灯、長袖、長ズボン、3日分の食料・水など) ・避難所に持参する食料 ・自治会による自主避難 ・水防団の位置確認 ・急病人の対応
意識啓発		<ul style="list-style-type: none"> ・想定外を常に頭に入れて行動する ・安全でないことを常に意識 ・区民への注意喚起 ・防災(減災)意識の共有化 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの避難計画を作成する ・近隣との話し合い 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を市民自らが得る努力をする(防災ホットメールの登録等) ・住民意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考え、行動する力を養う ・地域・人づくり、向こう三軒両隣の重要性(共助、ご近所パワー) ・コミュニティ ・住民意識の向上 ・日頃の防災訓練のあり方 ・災害時の行動を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に災害や防災について頭に入れておく ・自分の身の安全を守る ・自助努力 ・落ち着く ・家族のルールづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難経路を決めておく ・火災は予防第一、火災報知機と消火器の設置の徹底 ・気象情報や同報無線に対する注意 ・家庭内でリーダーを決める ・早めの避難行動の呼び掛け ・近隣への声掛け(避難勧告時など)・想定外を想定した対応の必要性 ・1人ひとりが避難所へ行く
情報収集・伝達	<ul style="list-style-type: none"> ・家族間の安否確認方法(例の記載等) ・情報収集手段、伝達手段 ・住民への情報伝達方法 ・緊急時、情報をどのように得るか(Facebookやツイッターの活用) 	<ul style="list-style-type: none"> ・水害に対する情報収集、備え ・災害情報の入手手段(テレビで情報を得る⇒電話(有線)⇒ラジオで情報⇒電気が停まれば無線) ・家族との連絡手段 ・情報伝達系統を分かりやすく表現 ・情報収集の方法(高齢者、無関心層にも分かりやすい内容) ・同報無線からの情報 	<ul style="list-style-type: none"> ・迅速な避難情報伝達の体制 ・津波情報の伝達方法 ・情報の種類 	<ul style="list-style-type: none"> ・外水・内水氾濫についての情報伝達 ・津波の際の屋内、屋外(農業従事者)への伝達方法 ・情報伝達方法(同報無線、サイレン、携帯電話、携帯メール) 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難勧告等の情報の伝達方法 ・降雨量、河川水位、山崩れ等の情報 ・家族との連絡方法 ・同報無線以外(豪雨、強風で聞こえにくい)の情報伝達手段(受信機や防災ホットメールなど) ・指定避難所以外に避難している人への情報伝達 ・情報伝達手段の複数確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・同報無線による連絡方法 ・避難所における安否確認の方法 ・停電時の情報収集手段(大雨) ・避難指示者の明確化(学校、職場、スポーツ等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・降雨量の状況や河川の水位状況、河川の氾濫状況等の情報 ・道路(生活道路)の不通情報 ・土砂災害の発生情報(位置、規模、交通の可否) ・気象情報の入手方法 ・どこに、何を連絡すればよいか ・自主防災隊への連絡方法 ・家族との安否確認の方法
発生前の減災方法	<ul style="list-style-type: none"> ・通常時の地震対策 ・家庭で準備しておく物、防災対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の対策(家屋の耐震化、家具の固定等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・高い場所への移転の周知 ・家具固定化による人命の確保 ・減災方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震への備えの徹底(津波の前に地震が発生する) ・家屋の耐震化、家具の固定、ガラス飛散防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・家具・家財等の転倒防止対策の徹底 ・地震時に火を出さないための注意 		<ul style="list-style-type: none"> ・家屋の耐震化

掲載項目	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
災害発生後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・家屋倒壊による火災対策、初期消火 ・身を守る手段 ・増水に伴う避難勧告時の行動 ・家、外出先での対応方法 ・浜松駅・商店街利用者の避難方法 ・JR浜松駅の帰宅困難者への対応 ・外国人の対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・状況別(平日、昼夜等)の対応方法 ・台風、大雨の際の避難の判断基準(避難するか家に留まるか) ・避難のタイミング(注意、警戒等警報との関係) ・災害発生時の行動 ・地域で行うべきこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震発生後の避難のタイミング ・地震発生時にとるべき行動ポイント ・災害別の避難方法(徒歩、自動車、車いす等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間帯別(昼・夜)の対応方法 ・避難の判断基準(水害時に自宅2階で留まるべきか) ・災害から逃れる術 	<ul style="list-style-type: none"> ・まず避難する 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難の判断基準(避難すべきか、自宅に留まるべきか) ・避難のタイミング 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震を感じたら直ちに消火行動 ・自分の身の守り方 ・避難するタイミング(自己判断基準) ・危険な場所には近づかない ・家族の安否確認後は持ち場を離れる ・孤立集落の対応 ・時間帯別(昼夜)の避難行動
防災マップ	<ul style="list-style-type: none"> ・避難経路、避難所(福祉避難所記入) ・応急救護所の場所 ・資機材の備え ・土砂崩れ危険箇所 ・避難所の位置 ・一次避難所、二次避難所等の設定 ・避難経路の表示(3パターン) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震直後に逃げる場所 ・集合場所 ・見てもらえるハザードマップづくり ・天竜川の堤防危険箇所の表示 	<ul style="list-style-type: none"> ・化学薬品等の危険物の所在地表示 ・精度の高い(最新被害想定を用いた)ハザードマップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・海拔の明記 ・想定津波高の明記 ・避難ビル、タワー、マウンドの明記 ・避難所の明記 ・セイフティマップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・潮位、海拔 ・正確な災害危険箇所を掲載(デフォルメしたイラストなどでマップ作成) ・災害に併せた避難地・避難所(分りやすく表示) ・ボランティアセンター設置場所と役割 ・道路幅員(色を分けて表示) ・貯水槽、消火栓 	<ul style="list-style-type: none"> ・河川決壊危険箇所 ・土砂災害の危険箇所 ・避難所の周知・明確化(昼夜・休日) ・障害者のための避難所の周知 ・避難所、連絡場所、避難経路 ・ライフラインの危険箇所 ・地域で避難経路を書き込める白図 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難地・避難所 ・身近で安全な場所(家族で共有化) ・長期間の避難を想定した避難所 ・地すべり・急傾斜地崩壊危険区域等 ・道路名称を記載 ・地名の明記
高齢者・要援護者・災害弱者	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、災害弱者(安否確認) ・要援護者の援助・対応 ・高齢者の対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時要援護者への情報周知(平常時、災害時) ・災害時要援護者の支援(いつ、どこへ、誰が、避難させるか) ・災害時要援護者台帳の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害弱者の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時要援護者への対応 ・高齢者・独居老人への対応 ・障害者情報 ・高齢者の避難方法、子供の避難方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時要援護者の安全確認 ・山間地における高齢者世帯の対応 ・高齢者や要援護者の支援(共助) ・要援護者の避難方法 ・災害状況意思表示(リボン立て)の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害弱者の所在が分かるマップ ・災害弱者のための車いすの保管場所(⇒マップへの反映) ・災害弱者の支援方法 ・障害がある方に対する理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者・独居者世帯の確認 ・要援護者の支援 ・安心キットの活用 ・各家庭玄関に避難所を示す準備あり ・1人暮らし高齢者の避難方法
体裁・内容・表現方法	<ul style="list-style-type: none"> ・字が多すぎると読んでもらえない ・みんなが行動に移せる情報提供(冊子の組立て、文字の色使い、掲載順序等) ・色々載せ過ぎると使いづらい ・災害の説明は少なくし、どのように行動すべきかを中心に掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ・手引書 ・サイズ(冊子?チラシサイズ?) ・災害発生時の避難行動をシンプル、簡単に示す ・一人一人が携帯できるサイズ ・一家に一冊 ・防災を考えるツール ・外国人にも分りやすいもの 		<ul style="list-style-type: none"> ・安否確認情報伝達カード 	<ul style="list-style-type: none"> ・震度別の絵や写真で分りやすく表現 ・沿岸部、都市部、山間部で区分 ・子供も避難できる分かりやすい内容 		
今後の課題	ソフト	<ul style="list-style-type: none"> ・避難誘導の実施体制(誰が) ・ボランティアの受け入れ体制 ・地域と団体の連携方法 ・避難場所の医療体制 ・災害協定(避難ビルの指定等) ・オートレース場や基地、広い場所(公園)等の役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院との取り決め ・避難所における女性リーダー配置 ・行政、市民、団体の連携 ・教育、企業、公共機関の連絡 ・各団体の連絡網の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害本部立ち上げまでの対策 ・避難所の運営方法 ・被災した際の支援・援護 ・ライフジャケット等の設備の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・津波に対する日頃の避難訓練の実施 ・区役所が被災した際の対応 ・第2、第3の本部の設置位置 ・避難所開設(運営)の訓練の必要性 ・避難後の対応 ・各種団体の相互間連携の必要性 ・具体的な避難訓練の実施(避難、避難所運営、リーダー育成) ・コミュニティセンターへの物資搬送 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の充実 ・リーダーづくり ・自主防災隊の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・減少した地域協働センター職員による災害時の対応 ・救護支援体制
	ハード		<ul style="list-style-type: none"> ・海岸の高潮対策 ・高潮対策のための土砂確保(土嚢用) ・係船による2次災害の防止 ・津波避難ビル等の避難地の確保 ・埋立地の対策(液状化の防止) ・避難所の耐震化 ・落橋防止策 	<ul style="list-style-type: none"> ・津波ビル、津波タワーの建設 ・避難経路における看板設置 ・建物の高さ制限の廃止(10mでも建設可能にする) ・津波警報だけでなく肉声の避難指示 ・海岸で聞きにくい同報無線の強化 ・津波発生時の道路運用(国道1号掛舞線の東西走行遮断、南北交通優先) ・老問橋の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・低地部における津波避難場所の確保 ・津波高さを表す看板の設置 ・釣橋川の浚渫による氾濫防止 ・土砂災害ハザードマップに対応した現地への案内の設置 ・急傾斜地危険区域内の避難所見直し ・危険区域にある家屋の移転 ・避難所の安全性確認(自治会による) ・天浜線の避難路としての活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・水害時におけるICの避難地指定(上島地区の避難地確保) ・水防工具・機器の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・指定避難所の安全性 ・ダム、橋梁などインフラの安全性 ・山崩れに伴うダムの堰き止めと崩壊 ・地域協働センターにおける情報把握 ・災害時リーダーの必要性(各地区における防災エキスパートの養成など) ・インフラ(電気・ガス等)の復旧対策